



耐久高校の全景（航空写真）

創立150周年を記念しての人文字
「校章と150」を全生徒により描く

2002年9月26日 文化祭前日

特別号

はばたけ耐久

教育懇談会の実施

創立百五十周年記念事業の一環として、有田郡内中学校長及び町教育長をお招きした教育懇談会が九月五日(木)本校応接室で開催されました。

有田地方の今後の教育展望と、本校教育の果たすべき役割や本校への要望等について関係者に意見や提言をいただき、教育の充実・発展に資することを目的に開かれたものです。

様々な意見・要望等が出され、充実した実り多い懇談会でした。参加者からは一様に、本校教育への大きな期待が示され、身の引き締まる思いを新たにいたしました。

懇談が深まる中で、当初予定していた時間を1時間近く超過しておこなわれ、様々な意見・提言・苦言等を拝聴するとともに、学校側の考え方も十分説明し、相互理解が大いに深まりました。当日だされた意見・要望の一部を紹介すると次のとおりです。

・地元の耐久高校へ進学させたい。地域に支えらるる学校であるためには、地元の人々にも分かる表現在で教育方針等を説明し



てほしい。もっとPRの充実に努めてほしい。
文武両道の理想を掲げ、教師・生徒は目標に邁進してほしい。

クラブ活動の現状はどうか？(クラブが強いときは、進学状況等も良い。クラブ内での会話のレベルが高いとおもうが実態はどうなっているか。)

もっと大胆な取組をしてほしい。志を高く保った教育の実現に邁進してほしい。校主 浜口梧陵翁の志の原点に立った教育の実現を目指してほしい。
教育は未来を語り、見る営みなのに、今の教師に未来を見極める指導ができてくるか？

なお、当日の出席者は以下の方々でした。

広川町教育長	下出 勲
湯浅町教育長	蔵野 圭一
広川中学校長	横貫 慶三
湯浅中学校長	山本 弘
箕島中学校長	伊藤 隆教
吉備中学校長	山本 正明
金屋中学校長	中 隆英

百五十周年記念事業実行委員会 上野 寛

PTA会長 三角 治

学校長 藪添 泰弘

教頭 小川 敬文

教頭 竹内 雅昭

総務部長 増元 貞夫

教務部長 池田 尚弘

進路指導部長 岩崎 浩久

生徒指導部長 中 伸一



〈支援事業〉

文化祭

9月27日(金)・28日(土)



百五十周年記念事業支援活動の一環として、文化祭での人文字(校章と百五十の人文字)撮影が九月二十六日(木)、グラウンドで行われました。表紙の写真は、ヘリコプターから撮影したものです。正門から玄関の整備もはつきりと撮影されています。また、二十七(金)・二十八(土)の両日文化祭が盛大に開催されました。今年は創立百五十周年にちなんだ取り組みも多く見られました。この作品は、生徒達が端切れを持ち寄り製作したパッチワークです。

第1回 耐久賞 (耐久教育論文賞) 受賞者決定!

創立百五十周年記念事業の一環として全国に向け発信した「耐久教育論文賞」の受賞者がこのほど決定いたしました。

本賞は創立百五十周年を記念して、この機会に青少年問題や教育問題等を世に問い、また高校生の心の叫びに耳を傾けたいと企画したものです。教育論文等を公募することにより教育研究活動の奨励と向上を図り、更なる高等学校教育の発展に寄与し、また、高校生の本音を問うことにより今何を考え、何を望んでいるかなどを的確に把握し、家庭教育向上と青少年への更なる理解をも目指しています。

全国より多数の応募があり、選考には和歌山大学教授、碓井岑夫氏を委員長に各委員が厳正なる審査をいたしました。結果、論文部門では、残念ながら最優秀賞は該当無しとなりましたが、秀作が多く審査は議論白熱となり、特別に優秀賞を五本にする措置をとらせて頂きました。全国から予想以上に多くの作品が集まり、本校提唱の教育問題を世に問うという意義が達成でき、百五十周年事業がよりアカデミックなものとなりました。本事業にご協力頂いたすべての方々にこの場をお借りして御礼申し上げます。この論文等を用い、更なる教育研究活動の展開を図りたいと考えております。

なお、入賞論文、作文、川柳につきましては、耐久高等学校ホームページに掲載し、また論文集も発行の予定です。
(耐久高校PTA会長 三角 治)

論文の部

応募総数 48編

優秀賞

「中学校で開かれた学校づくりの実践を高等学校でも」

小林 公司 (S・16)

東京都町田市
元中学校教諭

「夢を見いだせる教育を」

東 和明 (S・29)

和歌山市鳴神
きのかわトークニュース記者

「PTA発信！

ーザ、ペンタゴンー」

(代表) 井上 拳 (S・55)

東 広島 市
西北洋行教育戦略部

「基本を大切に、

自分自身のために」

瀬川 誠次 (S・33)

豊中市大島町
吉本興業(株)

「今、『学校』を考える」

川地 康弘 (S・34)

岐阜市菅生
岐阜県立岐阜高等学校

作文の部

応募総数 26編

最優秀賞

「私的幸せ論」

久保 仁美 (S・61)

香川県木田郡
香川県立三木高等学校

優秀賞

「主観的学校生活」

佐谷 知子 (S・61)

那賀郡岩出町
和歌山県立向陽高等学校

「私だけ」

牧野 祐希 (S・60)

愛知県安城市
愛知県立安城東高等学校

特別賞

「基準」

檜村 真衣 (S・61)

有田郡湯浅町
和歌山県立耐久高等学校

川柳の部

応募総数 947人 1189句

最優秀賞

「振り向けば

受験の二文字 追って来る」

上原 希 (S・59)

新潟県中頸城郡
新潟県立高田高等学校

優秀賞

「教室は僕等の夢の宇宙船」

橋本 圭佑 (S・59)

栃木県今市市
栃木県立韮学校

「いつまでも、

高校生をしていたい」

伊野波 貴子 (S・59)

沖縄県那覇市
沖縄県立那覇商業高等学校

「飛び立とう

自分さがしの滑走路」

生駒 悦也 (S・60)

有田市港町
和歌山県立耐久高等学校

先輩が先生



彫刻家 橋本和明氏
(高51年卒)

アのエヴァ先生、中国の後藤秋美先生等、各界で御活躍の方々「ローバル特別講座」を実施してきたところです。

らしい先輩をお招きし、「がんばれ母校、先輩が先生」の記念

今後ともより多くの生徒に様々な学習の機会を提供出来るよう大阪電気通信大学教授 川口雅之氏（高50年卒）です。

「人間を問う」

彫刻家として制作活動を始め、二十三年になります。

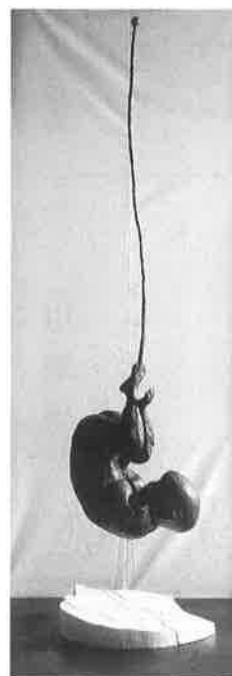
私の一貫としたテーマは、「人間——人間の存在について」と言えるかと思えます。

この問いが生まれた背景を辿って行きますと、中学時代の国語の教科書に登場した、高村光太郎に行き着きます。

少年の頃より、絵描きへの憧れを抱いていた私の心は、光太郎の詩と言葉に、新鮮な何かを感じ取ったのでしよう。

高校時代の私は「生きる」とはどういう事か、「私はいったい何者なのか」と、拙くも本質的な問いを生きるようになって、光太郎の言葉の数々は、芸術への思いと相俟って、とても刺激的なものでした。両親の反対を押して、金沢美術工芸大学・彫刻科を志望するようになった受験時代、毎日のように心の中でくり返し呟いていた言葉があります。

「心はいつでもあたらしく



存在論——記憶への回帰 2001

毎日何かしらを発見する」

「いくらまはされても 針は天極をさす」という光太郎の言葉。

「どんな人間も一日は二十四時間」という父親の言葉です。

彫刻とは関わりのないようなこれらの言葉は、時間の概念と生き方を問うものとして、二十数年を経た今も、私にとつて、制作を展開する上での指針となっています。聞き過ぎれば、あたり前で終わってしまう、その事を、くり返し問い直し、反省し、心を得るまでの時の永さ、難しさを感じると同時に、また、そこに人間の創造への可能性を見出す事ができると思えます。



2002.9.17

「橋本先生の講座を受けて」

三年八組 生駒美智

橋本和明先生は彫刻家として制作活動を始めて二十三年になるそうです。先生はその彫刻家を志したきっかけなどを、とても詳しくお話ししてくださいました。先生は高校時代「生きる」とはどういう事か」「私はいったい何者なのか」という問いを持って日々を過ごしていたところ、高村光太郎の数々の詩と言葉に何かを感じ取り、芸術に目覚めたということでした。私はこれを知り、とても感銘を受けました。先生が抱いていた問いはすごく難しいもので、いくら考えても簡単には答えが出ないのではないのに、詩を読んだだけで何らかを感じ取ることができたという事は、とてもすばらしいと思ったからです。

また、先生が両親の反対を押して美術大学を志望するようになるとき、いつも心の中でくり返し呟いていた言葉も教えていただきました。それは「心はいつでもあたらしく、毎日何かしらを発見する」「いくらまはされても、針は天極をさす」という高村光太郎の二つの言葉と、「どんな人間も一日は二十四時間」という先生のお父さんの言葉です。私はこの先生のお父さんが話してくれたという言葉はとても良い言葉だと思っています。時間だけが皆平等に与えられていてその時間をどれだけ充実したものにするかという事です。これを自分自身に問いかけてみると、あまり充実したものになっていないと思えました。

他にも先生が今まで制作した作品の写真をスライドで解説していただきました。先生の作品はとても繊細で、神秘的な感じがしました。「生きる」というテーマで数々の作品を制作されており、空中に浮いたように見える胎児を形どった作品が特に印象深く心に残っています。先生がお話してくださったことは、どれもすばらしく印象深いものばかりでした。言葉や詩をくり返し問い直すことで、日々をすばらしいものにした

〈先輩による授業〉

がんばれ母校



テニス国際審判員 石黒民子氏
(高38年卒)

本校ではこれまでも、アイルランドのパワー先生、スロバキアをお招きし、主としてグローバル探究科の生徒を対象として、「グこの度創立150周年にあたり、この特別講座に本校出身の素晴らしい事業を実施しているものです。

生徒もこうした講座を歓迎し、大きな成果を収めている事から、工夫してまいりたいと考えています。 次回11月の予定は

「夢を持って生きていくと いろんな事に出会うよ」

私は戦後の復興期、日本全体が一生懸命な時代に、ここ湯浅の町で文化を大切にしている大人に囲まれていつも夢を見ながら成長していったことを幸せに思っています。そしてこの素晴らしい自然、我耐久の建学の師、浜口梧陵さんゆかりの天州の浜や、真赤な夕焼に浮かぶ湯浅湾の島々の息を呑む美しくさが私の心の中に何か永遠、普遍的なものを求め続ける精神を育くんで下さったことに改めて感謝したいと思います。「我ふるさとよありがとう」と。

人は悩んだり挫折した時、立ち直れるかどうかはこの「風土の癒し」ともいえるふるさとを持つていくのが大きな鍵となるそうです。又、人の一生には色々な出会いがあります。苦しい時、悲しい時もあるけれど、ふとしたチャンスを与えられることもあるのです。その時それをつかむかどうかはそれを選択するその人の決断によるのです。

私は三人の娘の平凡な母親に過ぎませんが、高校時代から続けた大好きなテニスの世界で公認国際審判員の資格を取る機会に恵まれました。バルセロナオ



2002.10.17

リンピックやウインブルドン大会の場に立てたことは自分の人生の貴重な出来事でした。審判としてトップスポーツの中で学んだことは多々ありました。他人の立場を尊重し、矜を正して接しながらも自分の判断を毅然と主張し責任を取ること、時間を上手に使うこと、健康を維持することなどです。国際社会に受け入れてもらうためには単に言葉の能力だけでなく、日本人としてのアイデンティティをしっかりと持ち、自国の歴史や文化についても誇ることが出来、何よりも人間として立派であらねばなりません。これからも自分を見つめ、品性を高めていけるよう努力して行きたいものです。

気ばらず自然体でライフワークとしての国際交流活動にお役に立つていけたらと思っています。

「石黒先生の講座を受けて」

一年七組 芝 美加

石黒さんが、日本人女性初のテニスの国際審判を務めた方だと聞いていたので、どんな話が聞けるのか楽しみにしていました。私自身、中学校の時にソフトテニスをしていたので、とても興味がありました。石黒さんが審判になったのは、旦那さんが国際審判の公募を見て勧めたことがきっかけだったそうです。石黒さんは初め、少し軽い気持ちだったそうですが、やってみるととてもやりがいがあり、とても楽しく仕事をしていたようです。

話を聞きながら、石黒さんがとても若く、いい顔をしているなあと思います。テレビなどでも、何かの職人や何かを成し遂げた人はうまく言えないけど、とてもいい顔をしているなあといつも思います。自分で満足でき、何かをつかんだ人はあんな顔になれるのでしょうか。私にはまだ分からないけれど、私もあんな顔ができるようにいろんな経験をしていきたいです。そして、審判になったきっかけに私はとても考えさせられました。旦那さんに勧められたとはいえ、石黒さんに能力が無ければこんなとんとん拍子にことは進まなかつたと思います。審判の技術はもちろん、国際審判ということでも、英語の能力も必要でした。このように、やりたい事があっても、その時に必要な能力がなければチャンスを逃してしまふことになりそうです。だから私は、今ちゃんとした目標がなくても、今できる事、やるべき事を自分なりにがんばっていきたくて改めて思いました。石黒さんのような、貴重な経験をされた人の話を聞く機会はあまりないので、とてもいい時間が過ぎたと思います。そして改めて自分のこれからのことを少しだけだけど考えられた気がしました。

150周年記念事業

国際理解講演会開催

講師 ダニエル・カール氏



創立百五十周年記念事業の一環として、ダニエル・カール氏を講師に招き、国際理解講演会が十月十八日(金)、本校体育館で開催されました。

(演題) 国際化に生きる若者の在り方

本講演会は、学校開放の一環としても位置づけられ、生徒・学校関係者ばかりではなく、広く地域・一般の人々の参加も呼びかけました。

ダニエル氏は、米国カリフォルニア州出身

で、大の日本好き、高校・大学時代に日本に留学し、大学卒業後は英語指導助手として山形県などで英語教育に従事、その後翻訳・通訳サービス会社を経営するがたわら、現在はテレビ出演されるなど幅広い活動をされています。

氏の日本に対する見方は、来日前の本や教科書で得た憧れのイメージ(相撲、ちよんまげ、下駄、神社等々)と、現実に日本に住み、見聞きしたものでかなり異なったものとなり、カルチャー・ショックは相当大きかったようです。

しかし、東京を離れ地方に行けば、よく注意してみると、氏の脳裏にあった古き良き日本の原形は依然として残っていたこと等が語られました。

また、様々な人との出会いの中から、一層日本のよさを発見し、認識されたことなどが語られた。

氏の人なつっこく陽気な性格にもよるのだろうが、それらの



体験が、氏の幅を広げ、今日の活躍の元になっているように感じられた。

小気味よい話しぶりと、身振り手振りを交えた表情豊かなパフォーマンス、さらには山形弁を交えたダジャレやユーモラスな話術に多くの人が魅了されました。

内容的にも、説得力があり、お国自慢、町自慢のすずめから、日本のよさを再発見すること、そのことが国際理解における相手理解につながる事が強調されました。

我々日本人自身が、日本の良さを知らないか、忘れてしまい、そのため自信も失いがちになっ

「橋本先生の講座を受けて」

三年八組 槇 島 由布子

九月十七日、各界で活躍している耐久高校の卒業生に講義をしてもらうという授業で、この日は彫刻家の橋本和明先生が担当してくれました。先生は、湯浅駅から耐久高校までの通学路に建っている、羽の生えた女性(天使?)の像の作者だそうです。私は電車通なので、毎日この像を見ているけど、まさか自分達の先輩が作ったものだなんて、思いもしませんでした。あの作品は、周りに植えた木も含めて一つの「作品」だそうです。木の成長と共に形を変えていく作品なんて、おもしろいなと思いました。先生は高校生の頃から彫刻家を志していたそうです。創作において、その頃から今まで、テーマは一貫して「人間の存在について」だそうです。そんな壮大で、漠然としている難しいテーマを、自分と同じ年頃の人が考えていて、それを作品にしていた

なんて驚きです。しかも、それから二十年以上経った今でも追い続けているんだから、すごいと思います。あと、先生は去年のテロ事件の後、しばらく作品が作れなかったそうです。某ミュージシャンもそういう事を言っていました。やっぱり芸術家の方というのは感受性が強い分、精神的なダメージも大きいんだろうかと思っただけで、「人間」をテーマにしている人にとつて、これ以上痛ましい事件もないだろうから、ショックを受けて当然だと思います。私は、先生のように、作品を作って「平和」を訴えたりは出来ないけど、グローバル探究科なんて入ってる位だし、もつとちゃんと世界の事を見つめて、考える人間にならないといけないなと思いました。

ている。
米国人である、ダニエル氏から日本の良さ、日本発見を教えただき、日本語や話術の素晴らしさを教わった気がしました。

具体的な事柄として、日本文化の優秀性等と係わって食文化や、治安、交通網等の事例が示された。

それらは、極めて説得力のあるお話で、説明されてみると「なるほど」と目から鱗の感が強いものでした。

治安の良さに関して、氏の経験談が印象的でした。

警察の犯罪検挙率が世界有数であること。米国に比べ、犯罪の発生率も少ないこと等が述べられたが、その背景にあるのは他を氣遣うやさしい国民性にあると氏は言いたいらしい。



氏は過去に二度財布を紛失したが、二度とも氏の元に届けられた。

しかも、中身は抜かれず元のままであったという。特に、二回目に紛失した際、老婆が氏を必死に追いかけて財布を届けてくれた。ゼスチャーたっぷりに話していただいたが、人情味ある日本人の話題には、多くの聴衆は、ほのぼのとしたものを感じたと思う。

日本の良さや、和歌山と身近なもの、再発見をし、再認識する良い機会になったと思います。講演終了時、氏への感謝の気持ちを込めた盛大な拍手が体育館内に響きました。

国際理解教育の目指すもの

学校長 戴添泰弘

三、四年前の事、福井県で千葉大学の明石要一教授のお話をお聞きする機会があった。そのお話の中で、氏は「ここ十数年米大学から消えたもの、又消えつつあるものがある。それは、お国（故郷）自慢、学校自慢が出来る学生があまりにもいなくなったことだ。一体彼らにとって、高校というのは大学への一つの通過点にすぎないのか」というようなものであった。

今回ダニエル・カール氏の講演の中でも、日本人は自国の良さに気付いていない、また知らないのではないかと指摘があった。ふと私は上記明石教授の話を思い浮かべたものだった。

国際理解教育、異文化理解教育といっても、広い視野で異文化を理解し、異なる文化を持った人々と共に生きていく態度等を育てるためには、生徒達に自国や故郷の歴史や伝統文化について理解を深めさせるとともに、先人達によってどのような歴史が展開され、今日の社会が築かれてきたのか等しっかりと理解させることが、「国際人」たる人間を育成する上で、大人の又教師の重要な責務と、この度の講演を聞く中で認識を新たにしたい次第である。

「石黒先生の講座を受けて」

一年七組 辻 本 多絵子

私は最初、石黒さんはウィンブルドンでの日本女性初の審判なのだから、いかにも厳格で、近よりがたい雰囲気を持った方なののだと思っていた。だが、実際にお話をされている様子を見たり、内容を聞いてみたりすると、穏やかで優しいような「お母さん」という印象を受けた。

しかし、お話を聞いてみると、やはり内にはしっかりとした自己意志を持っているのだと感じた。また、講演の時に、配られたプリントにも書いてあったような、「国際社会に受け入れてもらうためのある種のバランス感覚」も兼ね備えておられると思った。そうでないと、ウィンブルドンという大舞台で審判を任せられることも高い評価を得ることはなかっただろう。

私はまだ耐久という小さな社会でしか生きていない。だがそれでも十分自分らしさが発揮できているかといえば、そうではない。これから、成長するにつれ、そういう部分が自分には必要なかなと思った。また、石黒さんは「湯浅湾の夕焼けの美しさ」について話されていた。それは故郷への愛着心の表れだと思ふ。私も自分の生まれ育った土地はとても好きだし、また、高校進学と共に下宿し、その土地を離れたことによって、初めて分かったよさもある。だからその時、石黒さんがおっしゃったことは、私の心にとんとなじんだ気がした。

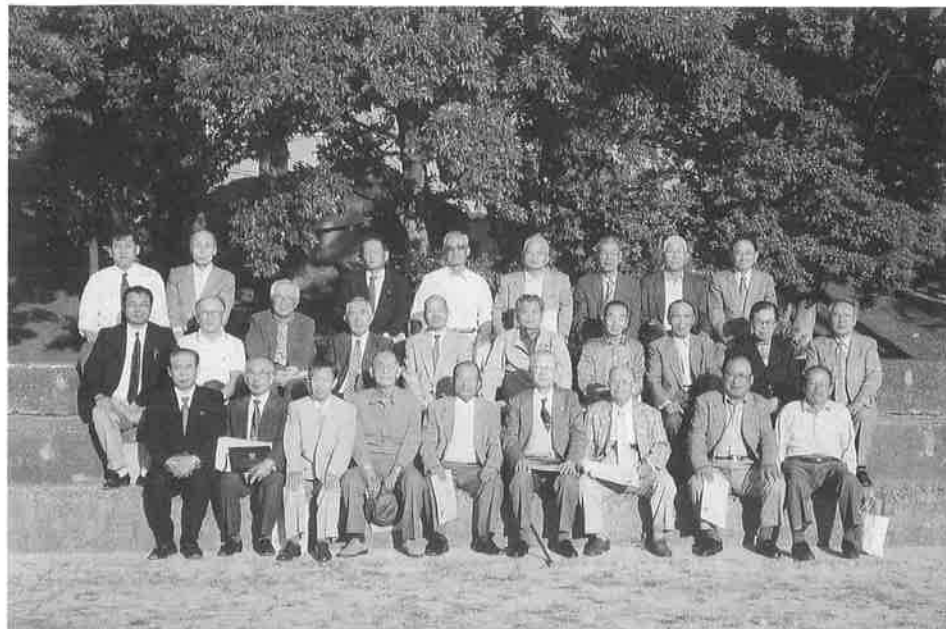
私が通っている耐久高校には、石黒さんのような偉大なことを成しとげた方が多くおられるのだと改めて感じた。私も耐久生だが、そんな大それたことができるという自信はない。しかし、自分が今できることを精いっぱいやって、一日一日を大切に生きていけば、結果はあとからついてくると思う。石黒さんが高校、大学時代を通してテニスと英語に打ち込み、後にウィンブルドンで審判を務められたように。



清秋の一日、思い出の地に集う 旧制中学同窓生の会

去る十月十日、思い出多い広川町耐久中学の地に、旧制耐久中学の同窓生が集まった。これは母校では百五十周年の記念行事が繰り返されている中で、旧制

中学の卒業生としてもしっかり協力できることがあるのではないかと、先輩の方々の意向を受けて、主に40、42期生有志の呼びかけで、急遽、近隣の同窓生が集ま



「たしか当時は5段だった筈だが…」と思い出多いスタンドで記念撮影

ったものである。会の名称は「旧制耐久中学校OB有志による 創立百五十周年記念事業に協力する会」であった。会合は午後二時から、この日のため特別の計らいで、由緒ある「耐久社」の扁額が掲げられた「耐久社記念館」で行われた。同窓会事務局白井敏之氏の司会により、酒井直之先輩(30期)の挨拶に続いて、上野 寛記念事業実行委員長からの記念事業の概略やその進捗状況などの説明があり、橋本佳巳同窓会長、数添泰弘学校長の挨拶、堀 武氏(40期)の現校舎や記念館の説明があった後、参会者の意見交換に移った。記念募金をめぐって喧嘩(けんか)の意見や感想などが噴出したが、いずれも母校の発展を願う熱い思いのあふれる発言であった。そしてこの募金活動は今回かぎりというのでなく、同窓会館の建設をも視野に入れながら今後も継続して母校の発展を支援する活動を続けてゆこうということが大方の総意としてまとまった。

会合の後は、すがすがし



校門近く、滝田校長先生宅はここだったかな…。

い秋の陽光のふりそそぐグラウンド北端の思い出のスタンドで記念撮影が行われた。また、会合に先立っては、東濱口家のご厚意により、希望者が同家の庭園を鑑賞させていただき創立者を偲ぶ機会に恵まれた。

『編集後記』

一年に二回定期発行してきた「同窓会報」も、気が付けば既に第十回を数えました。今回、創立百五十周年を迎えるに当たり、記念事業の一端を紹介する特別号(通巻十一集)を発刊することになりました。これも百五十周年という一つの目標があったればこそ継続してこられたものと思います。

現在発行部数は五、五〇〇部を数え、定期講読を希望される方、各期の幹事・評議員への配布、又期毎の同窓会や各支部の集會時などで読んでいただいている現状です。

その間、会報発刊の趣旨をよくご理解下さり、物心共にご支援・ご鞭撻下さる多くの会員各位をはじめ、色々な方法で浄財を提供下さる世話人さん達のご配慮とか、協賛広告に快く応じて下さる方々、投稿面で紙面を盛り上げて下さる方々等、多くの応援団のご協力の賜物と、編集委員一同心より感謝致しております。今後共皆皆様方よりのご理解・ご指導を糧として、皆様に喜んでいただける会報作りに努めたいと存じます。どうか、さらなるご協力をお願い申し上げます。

150周年を記念して発売!

◆ 校歌CD
(旧制中学校・有田高女・耐久高校)
¥1,500-

◆ 耐久校史 予約受け中
お申込みは学校事務局へ
TEL 62-4148